

防犯専門官

山田 英明

4月になると園児だった子も新1年生になり、生活範囲が広がって保護者から離れて一人で行動することも多くなります。保護者は子どもに何が危険でどうしたら安全なのかを事前に認識させるため、子どもと一緒に新生活で広がる範囲や通学路を歩きながら危険箇所などを事前に確認しましょう。

通学時の子どもの安全

①危険箇所を確認させる

防犯上で確認する時のポイントは、不審者が「隠れやすく・犯行が見えにくい」ところです。

- ・人通りが少なく高い塀などに両側を挟まれているところ
- ・下校中、家に近づくにつれて友達と別れ1人になってしまうところ
- ・トンネルやガード下で昼間でも薄暗くて落書きが放置されているところ

- ・高台にある神社や公園など、樹木が生い茂って見通しの悪いところ
- ・マンションの駐車場で不特定の人が出入りでき、車のかげで死角ができる場所などです。過去、このような人目の届きにくい場所で被害が発生しています。これらの場所には近づかせないか素早く通り抜けるように教えましょう。



また、子どもの行動を把握するには「**出かけるときは行き先と帰る時間を告げるようにする**」ことを徹底させましょう。

②避難場所を教える

いざという時に逃げ込める場所も探しておきましょう。

- ・子ども110番の家
 - ・管理人のいる公民館や公共施設
 - ・コンビニエンスストア
- などで、市内でも子どもが駆け込んで助けられたという事例があります。

③自分自身で身を守る

不審者に対しては「いかのおすし」で身を守りましょう。

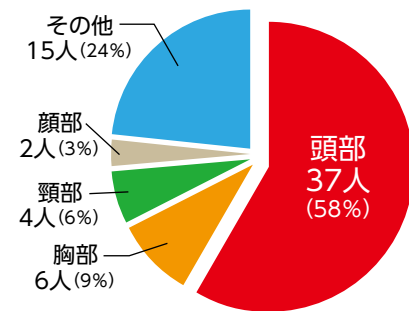
「**い**か」…知らない人について「**い**か」ない
 「**の**」…知らない人の車には「**の**」らない
 「**お**」…連れていかれそうときは「**お**」おきな声を出す
 「**す**」…危ないときには「**す**」ぐ逃げる
 「**し**」…何かあったらすぐ「**し**」らせる

この防犯標語を覚えていて身を守った子どももいます。

自転車利用時は命を守る「ヘルメット」を着用しましょう

福岡県警の統計（平成30年（令和4年累計））では、自転車事故で亡くなった人の約6割が頭部に致命傷を負っていました。

自転車乗車中の人身損傷主部位（平成30年から令和4年までの累計・福岡県）



ヘルメットを着用していない場合、着用時に比べて致死率が約4倍に跳ね上がっている統計も出ています。

この結果を踏まえ令和5年4月1日から、道路交通法が改正され、**自転車利用者のヘルメット着用が努力義務**となりました。

自転車に乗る時はお気に入りのヘルメットを着用し、大切な命を守りましょう。

筑紫野警察署からのお知らせ ～子ども・女性をねらった性犯罪に気を付けましょう～

4月は入学・入社など、新しい環境での生活が始まる時期です。これから暖かくなってくると、性犯罪が増加する傾向にあります。防犯ポイントをしっかり把握して、自己防犯活動に努めましょう！

筑紫野警察署 ☎(929)0110



夜道は危険！

なるべく1人歩きを避けて、明るく人通りの多い道を歩きましょう。スマホを使用しながらの「ながら歩き」はやめましょう。



家でも気を抜かずに！

家に入る前に周囲を確認し、家に入ったら必ず施錠しましょう。防犯カメラ、センサーライト、補助錠など防犯設備を設置しましょう。